

オリコンサル 交通事故削減で子会社 海外展開、地域活性化にも

オリエンタルコンサルタンツは17日、交通事故削減や車両管理などのサービスを提供する子会社「トータルフリー

トサービス」（本社・東京都渋谷区、大西康弘社長）を設立したと発表した。発展途上国にも2015年度から展開するほか、地域活性化にも活用を考えている。

新会社は、「車録（シャーロック）」「車両管理BPOサービス」Dr. Watson」の3つのサービスを提供する。車録は、車両に設置したドライブレコーダーのデータ

を分析して、個々のドライバーに運転を指導するコンサルティングサービスで、基幹システムとなる。

BPOサービスは、リースや保険、整備など車両の管理業務を企業から受託するもので、既にグループ会社のリサーチアンドソリューション（同、美濃部直樹社長）が手

掛けている。Watsonは車録で収集したデータを基に、行政に対し道路構造改良などインフラによる事故対策検討、対策実施による効果のモニタリングサービスを提供、オリコンサルが実施している。

新会社は3つのサービスを自社で提供するほか、グループ会社とも連携して共同で提供する。車録の1台当たりの

利用料は、データの閲覧と分析が月1000円、コンサルサービスが同2000円で、年間では合計3万6000

円。3年後は顧客が年間5000台、受注額が2億円、売上高営業利益率が20〜30%を目標としている。

現在、大手外資系製薬会社と契約して37台の運用を始めているほか、導入のためのテスト運用を数社で実施している。北九州市とは、データ活用の実証実験を共同で実施、1月からドライブレコーダーを公用車に設置している。

オリコンサルの野崎秀則社長は、「起業家精神を持つ人材の育成と、グループが連携してサービスの総合化を図る」ことが狙いと述べた。



（左から）野崎、大西、美濃部社長
会社「株式会社トータルフリーサービス」の記者発表
オリエンタルコンサルタンツ・株式会社トータルフリーサービス